

報道機関各位

2016年9月26日

ケニアの母子支援活動「Mother to Mother SHIONOGI Project」1年目の進捗と  
第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）ジャパンフェア出展について

塩野義製薬株式会社（本社：大阪府中央区、代表取締役社長：手代木 功、以下「塩野義製薬」または「当社」）は、2015年10月に開始した日本とケニアのお母さんの健康を応援する Mother to Mother SHIONOGI Project\*1（以下、「Mother to Mother」）の1年目の進捗をご報告するとともに、先般ケニアで開催されたアフリカの開発をテーマとする国際会議である第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）ジャパンフェアにブースを出展しましたので、お知らせいたします。

「Mother to Mother」は、当社グループが販売する総合ビタミン剤「ポポン®S」シリーズの売上高の一部と全社員からの寄付により、ケニア国ナロク県イララマタク地域の妊産婦・新生児・乳幼児の健康と医療面での自立をサポートするプロジェクトです。「ポポン®S」シリーズで日本のお母さんの健康をサポートすると同時に、ケニアのお母さんに元気を届けることを目的とし、この名前が付けられました。本プロジェクトは、国際非政府組織（NGO）ワールド・ビジョン・ジャパンの協力のもとで実施しています。

1年目のプロジェクト活動としては、現地で診療所の建設に取り組んできました。建設作業は順調に進捗しており、10月中には建屋の建設が完了し、11月前半には開所できる見込みです。開所後も、産科設備や貯水タンクなどの導入を進めることで、現地ヘルスケアシステムの充実を図ります。また、地元のナロク県保健省から、医師や看護師を派遣いただける予定です。

さらに、地域保健員を介した現地の住民の皆さまに対する保健医療教育を推進してまいりましたが、診察・検査件数、ワクチン接種件数は、何れも増加\*2しており、保健医療教育が着実に成果に結びついてきているものと認識しております。

また、TICAD VI ジャパンフェアにおいては、「Mother to Mother」についての説明とともに、塩野義製薬の半世紀以上にわたる感染症に対する取り組みを紹介しました。ケニアのみならず、アフリカ各国や日本政府の関係者の方々に当社のブースをご訪問いただき、「Mother to Mother」や感染症、とくに HIV や結核に対する当社の取り組みについて、多数の質問や感想をお寄せいただきました。

同時に、同フェアの参加企業と異業種間協業の可能性についても検討していく予定です。

母子保健と感染症は、近年の主要国首脳会議（サミット）や今回の TICAD VI においても主要議題として取り上げられる等、グローバルの社会課題として認識が高まっています。塩野義製薬は、これらの社会課題に今後も継続して取り組んでまいります。

以上

\*1 :プロジェクト開始時のリリース(2015年10月15日):<http://www.shionogi.co.jp/whatsnew2015.html>

\*2 :ワールド・ビジョン・ケニアからの月例レポートによる

<Mother to Mother による支援事業の概要>

協力団体 : 国際 NGO ワールド・ビジョン・ジャパン

支援地域 : ケニア共和国 ナロク県 イララマタク地域



寄付金額 : 2015年度は2,000万円を拠出

期間 : 2015年10月~2018年9月

支援内容 : 病院の建設、巡回診療による基本医療の提供、現地保健省との連携、医療従事者への教育、住民への啓発活動による地域の保健システム強化

URL : <http://www.shionogi.co.jp/company/csr/mtom.html>

<ワールド・ビジョン・ジャパンについて>

キリスト教精神に基づいて、貧困や紛争、自然災害等のために困難な状況で生きる子どもたちのために活動する国際 NGO。国連経済社会理事会に公認・登録された、約 100 カ国で活動するワールド・ビジョンの日本事務所です。<https://www.worldvision.jp/>

[お問合せ先]

塩野義製薬株式会社 広報部

TEL : 06-6209-7885 FAX : 06-6229-9596